

小平市青少年委員だより

はつらつ

— 編集:小平市青少年委員会 発行:小平市教育委員会教育部地域学習支援課 —
042(346)9834

青少年リーダー養成講座

令和5年度の青少年リーダー養成講座は、ジュニア受講生31名(小学5・6年生)、シニア受講生25名(ジュニアを修了した中・高生)を対象に、子ども育成部会の青少年委員9名が指導者として担当しています。

コロナ禍での過去3年間は、講座の中止や動画の限定配信、状況に応じたリモート、または対面での講座を行ってきました。令和5年度は、『対面での講座開催』をするために、検討や工夫をしながら取り組みました。年度当初は様子を見ながら講座時間を2時間程度として実施、9月以降は以前のように1日の講座も行いました。

4月 「合同:開講式」(小平元気村おがわ東)

5月 「ジュニア:デイキャンプ①テント設営と片付け」(子どもキャンプ場)

「シニア:シニア研修 キャンプファイヤー、まき割り・火起こし」(子どもキャンプ場)

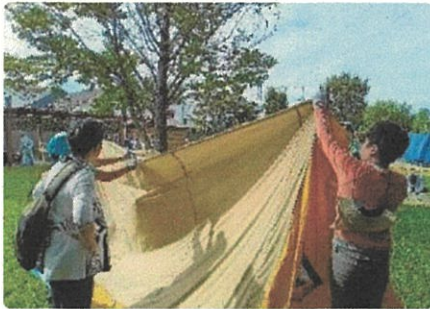
6月 「ジュニア:デイキャンプ② まき割りと火起こし」(子どもキャンプ場)

7月 「シニア:レクリエーションを学ぶ」(中央公民館)

9月 「合同:1泊キャンプ」(子どもキャンプ場)ジュニア&シニア:飯盒炊爨とキャンプファイヤー
シニア:午前中からジュニアを迎える準備、夕方のキャンプファイヤーでは大活躍!テント泊も体験



- 10月 「ジュニア:郷土を学ぶ 手打ちうどん作り」(中央公民館)
「シニア:なんでもやってみよう ピタゴラ装置作り・室内クッパ」(中央公民館)
- 11月 「ジュニア:小平市を歩く ウォークラリー」
- 12月 「合同:クリスマス会」(中央公民館)
- 1月 「合同:みんなでやってみよう
ニュースポーツほかレクリエーション」(小平元気村おがわ東)
- 3月 「合同:閉講式」(小平元気村おがわ東)



今年度も状況に応じて、その時にできることを工夫しながら講座を企画・運営してきました。受講生たちがさまざまな体験を積み重ねていくことができるように、これからも取り組んでいきたいと思ひます。(今村)

【 令和5年度 小・中学生広島平和学習 】

多数の応募者から選ばれた小平市の代表である、小学校6年生から中学校3年生の子どもたち10人と共に、小・中学生広島平和学習事業に参加しました。

本事業は、事前研修(7月8日)で参加者が初めて一同に会し事業説明を受け、広島を訪問(8月5日・6日、一泊二日)のうえ平和記念公園等の見学及び広島平和記念式典に参列、そして事後研修(8月19日)において小平市在住の被爆体験者から講話を聞きます。この一連の事業を通して、戦争の悲劇を知り想像を働かせることで、平和の大切さを後世に継承する担い手の育成を目的とします。

広島訪問初日の5日は、平和記念公園、原爆ドーム、爆心地及び資料館を見学しました。公園内にある原爆の子の像では、参加者が折った千羽鶴を捧げ、近代的な広島平和記念資料館にて写真や映像、遺品類を



見学しました。また、翌日6日は、平和記念式典に参列し、改めて今ある平和の有難さ、平和を守る大切さを勉強しました。今から78年前の1945年8月6日午前8時15分、原爆ドーム(旧広島県産業奨励館)から南東約160m、高度約600mの位置で、人類に向けて初めて核兵器が使用されました。アメリカの爆撃機B29から投下された暗号名「リトルボーイ」は、広島街を一瞬のうちに焼き尽くし、爆心地から半径1.2km内に居たほとんどの



人は、3000℃～4000℃（鉄の溶ける温度は1538℃）の熱線、空気が膨張することにより起こる爆風、降り注いだ数百シーベルトの致死量を超える放射線、あるいは建物の倒壊の下敷きで即死または数日以内に死亡しました。また、当時約35万人の広島市民のうち、およそ14万人（小平市の人口は現在約19万人）が、その年の12月末までにお亡くなりになりました。



生き長らえた被爆者の方々も、重い火傷や放射線による病の後遺症、そして心無い差別や偏見に長く苦しんだそうです。その差別や偏見を生んだ原因の一つとして、日本国民に正確な情報・知識が与えられなかったからと言われていています。原爆投下直後から医師や研究者約1300人体制で現場の調査をし、作成された180冊以上の報告書は、そのすべてを原爆投下国アメリカの研究材料として没収され、戦後日本を統治したGHQは厳しい報道規制をしてきました。これにより、日本国民には、放射線による障害や火傷によるケロイドについて、正確な情報・知識が与えられず、就職差別や結婚差別を生んでしまいました。

そして事後研修（8月19日）では、1945年8月9日18歳の時に長崎で被爆された、御年97歳の語り部（かたりべ）の田中さんによる被爆体験談を、一般市民の聴講者と聞かせていただきました。酸素を吸引しながらまさにご自身の身を削ってお話いただき、感謝申し上げます。高射砲を担当する兵隊だった田中さんは、大火傷をおい「水が欲しい」と苦しみの声をあげる多くの人々と防空壕で過ごした夜を思い出し、兵隊として国民を守れなかった自責の念を今でも忘れられないと語られていました。参加者から「ロシアのウクライナ侵攻」について質問されると、「本当に悲しい、どのような国の事情も認められない。戦争は起こしてはならない。」とお答えになった田中さんの心の叫びは、聴講者全員の胸を打ちました。事後研修の最後、子どもたちは、広島平和学習事業に参加した感想等を聴講者の前で発表します。すべての子どもたちは「正しい知識を持ち、少しでも伝えることが大切である」と本事業で学習した、未来の平和を担う気持ちを、立派に発表できました。



戦後78年が経過し、語り部の活動をしてくださる被爆者もご高齢となりました。しかしどのような時代を迎えても、世界で唯一の被爆国民である我々は、正しい知識を持ち、人権の視点から社会を見てお互いのおかれた立場を尊重すること、そして戦争のない平和な世界を継続することの大きな責務を、改めて認識した事業となりました。（岩本）



【姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業】

小平町との交歓交流事業は1979年、昭和54年に始まり、今回で45回目を迎えました。私自身が昭和56年の第2期生として参加して以来続いている事業で、その事業に指導者として参加させていただ



こと本当にうれしく思っています。

昨年令和4年度に小平町に訪問した際に交流した仲間達を、今年は小平市でお迎えするという事で、小平町で色々体験させていただいた事を思い出しながら、事前学習・準備を進めてきました。

期間は7月31日(月)から8月3日(木)の3泊4日。初日は午後1時に小平市役所6階の大会議室に集まり、小平町の仲間の到着を待ちながら対面式の会場設営、飾り付けをしていました。

午後4時に小平町のみんなが到着すると、初めは少し照れもあったようですが、一瞬でうちとけて宿泊場所に向かいました。

2日目は小平市内の見学で、ブルーベリーの摘み取りに始まり、平櫛田中彫刻美術館、ふれあい下水道館、鈴木遺跡資料館を見学し、途中グリーンロードを歩きながらたけのこ公園で遊び、小平ふるさと村へ行きました。小平ふるさと村では小平町との友好の記念のカキノキを見学し、何と時間外にもかかわらず、旧神山家住宅主屋で糧うどんを夕食でいただくことができました。

3日目は朝早く出発して東京ディズニーランドへ。前日の夜は班ごとにみんな真剣にどうやってまわるか相談していたのが印象的でした。そのかいあってか、全員無事楽しく思い出作りが出来たようです。夜は昼間の興奮が冷めなかったのか男子も女子も大分遅くまで大騒ぎしていたので、小平市の鬼、小平町の閻魔よりも怖い指導者に見つかって、本気で怒られていました。そんな状況を見ながら自分自身も参加していた当時、夜中に脱走したりして遊んでいて当時の指導者の方々に滅茶苦茶怒られ、ご迷惑をかけたことを思い出し、改めて今は亡き指導者の方々に大変なご苦勞をおかけしていたのだなと懐かしむと同時に反省しました。

最終日、最後まで最後くらいはしみりなるかなと思いましたが、そんなことはありません。次から次へと色々な事が……。でもお別れの集いでは恒例の帽子へのサイン会が今だに健在で、今年も真っ黒になるくらい書かれているのを見てうれしく思いました。バスに乗り込み、紙テープを流すといよいよお別れです。バスが動き出しても紙テープを離さず、ギリギリまで別れを惜しんでいました。

あっという間の4日間でした。色々な事がありましたが、中身の濃いとても良い交歓交流でした。今後も末永くこの交歓交流が続いていく事を、事業に参加したOBとしても願っています。

最後になりますが、企画・計画段階からご尽力いただきました小平市、事務局の皆様、送りだしていただきました青少年委員会の皆様、本当にありがとうございました。(和久井)



小平市民まつり

10月15日、4年ぶりに小平市民まつりが開催されました。当日は朝から雨風強く、開催が心配されましたが、午後には晴れ、活気ある一日となりました。

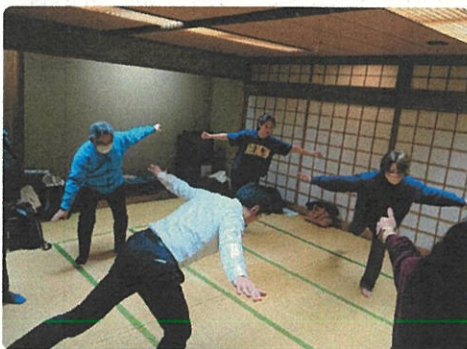
青少年委員は、年間を通し、市内の青少対（青少年対策地区委員会）や地域の子ども会などの依頼を受けて、バルーンアートなどの「出前遊び」を行っています。コロナ禍で一時減少していた依頼も、今年になり戻ってきました。



市民まつりでは4年ぶりに「ちびっこ広場（あかしあ公園）」にバルーンアートのブースを設け、多くの子ども達に無料で配布しました。男の子は「剣」、女の子は「花」が人気で、小さなお子様には「アンパンマン」、ハロウィーンが近いこともあり「カボチャ」が特に喜ばれました。

半日ではありましたが、息つく暇もないくらい行列ができ、たくさんのおもたちの笑顔に触れ、佳き一日を過ごすことができました。（菊地）

青少年委員研修



「誰でもできるアスリートのトレーニング」

日本サッカー協会の「フィジカル・フィットネスコーチ」のライセンスを取得された尾方委員による研修会を行いました。3つのウォーミングアップの目的を知り、静的・動的ストレッチを理解したうえで行うことを学び、「ムーブメントプレ

パレーション」を実践しました。これは、今やアスリートも取り入れている動作を行うための準備としてのストレッチ・筋トレですが、誰でもできるということです。

「体幹を意識しながらのストレッチで、とても体が温まった」「日頃から継続していきたい」「たくさんの方があり、参考になった」「子どもたちにも伝えていきたい」など、参加者の感想が集まりました。

ぜひ今後の活動に活かしていきたいと思います。

（田畑）

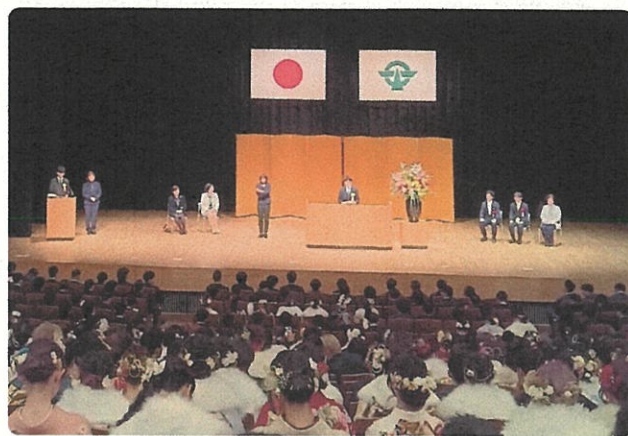


二十歳の集い

天候に恵まれた穏やかな一日で、晴れやかな姿の参加者が式典に集まりました。今年からは一部制の開催に戻り、1階、2階とも満席、新たな門出を祝う日となりました。

二十歳の集い実行委員会による開式の言葉、小平市長式辞、来賓祝辞と、厳かに進められた式典に、あらためて成人としての実感を抱いたと思います。式典後のアトラクションでは、各々の卒業中学校恩師からのお祝いムービー、さらには、

WBCで日本を優勝させた栗山英樹 前監督（小平市出身）からのサプライズお祝いムービーが上映されました。また、抽選会では、市内の様々な企業より提供頂いたお祝いの商品が当選者にプレゼントされました。（千田）



※ 小平市の二十歳の集いは、その年の参加者の有志にて構成された「二十歳の集い実行委員会」が、企画・運営をしています。



青少年委員会ホームページ更新されております！

小平市青少年委員会のホームページを見れば、活動の様子、今後の活動予定や

「青少年委員ってなあに？」「どのような活動をしているの？」などの

疑問も解決することができます。原則、毎月1回情報を

更新しているので、チェックしてみてください。

スマートフォン等はQRコード読取りからの

アクセスが便利です。

どうぞ、よろしくお願いいたします！



QRコード



<http://www.kodaira-net.jp/ksi2006/>